神奈川県津久井地域の「にごみ」についてⅡ

櫻井 美代子

津久井地域の「にごみ」は昔から日常食として食べられていたが、今ではあまり食べられていない。そのため普及活動の一環として「うどん教室」や「さがみはらフェスタ」・「本学学園祭」へ参加をしてアンケート調査を行った。うどん教室参加後ではうどんを作ってみたい意識が3件ともに、あがったと考えられる。また「さがみはらフェスタ」・「本学学園祭」での結果ではどちらも食べたことがない回答は90%であった。今後ともこの地域の伝統食を伝えていくことが重要と考える。

キーワード: にごみ うどん 津久井 日常食

1. はじめに

津久井地域とは、現神奈川県相模原市の北西部に位置し、山梨県・東京都に隣接している。旧津久井郡の藤野町・相模湖町・津久井町・城山町にあたり、現在相模原市緑区に属している。その地域で古くから日常食として食べ続けられてきた伝統食である「にごみ」(煮こみうどん)に視点をおき、聞き取り調査や文献などより、再現作業を行った。また地域の特性・うどんの歴史等のほか、地域連携との活動内容について前回報告を行った1)。

旧津久井郡では、米の収穫量が少ないため、小 麦粉食が多く食されてきた経緯があげられる²⁾。

津久井の伝統食である「にごみ」とは、「にごみうどん」とも呼ばれ、季節の野菜などと共に塩分の少ないうどんを、生のまま直に汁に煮こみ味噌か醤油で味付られ、主に日常食の夕食として食されてきたものである³⁾。

2. 目的

津久井地域においても、現在ではあまり食されていないため、「にごみ」の普及について活動の 一環として、津久井地域の四町で「にごみうどん 教室」を3回行い、参加者にアンケート調査を行った。アンケート結果により今後の普及活動の示唆を目的としたい。

3. 研究方法

「にごみうどん教室」参加者へのアンケート調査(平成24年7月14日、9月29日、10月13日、平成25年2月15日)、本学学園祭(11月10日、11日)参加時「にごみ」試食者へのアンケート調査、並びに「さがみはらフェスタ」参加時試食時にアンケート調査を行いその結果より考察を行った。

4. 結果・考察

(1)「にごみうどん教室」(プレ・藤野・相模湖) 普及活動の一環として、学生主体型で「にごみ うどん教室」を4回開催した。それぞれ参加者に アンケート調査を行った。

1回目は練習の意味も含め「プレうどん教室」 と称し本学調理実習室を使用し、卒業生親子や関 係者の友人等を招き行った。

2回目は、藤野商工会協賛で、藤野公民館で行った。3回目は相模湖商工会のご協力で千木良公民館で行った。参加者人数、年齢構成等は表-1にまとめた。

表-1 3件の「うどん教室」参加者構成

プレうどん教室		
	女性	男性
10 代	2名	
20代	2名	
30代	1名	1名
40 代	2名	
50 代	2名	
60代	1名	
	合計 11 名	•

合計 11 名

11 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		
	女性	男性
10代		1名
20代		
30代		1名

1名

2名

1名

1名

60代	
70代	1名

40 代

50 代

藤野うどん教室

合計8名

相模湖うどん教室

	女性	男性
10代		
20代		
30代		
40 代		
50 代	2名	
60 代	9名	1名
70 代	4名	1名
80 代	1名	

合計 18 名

アンケート調査の結果

Q.「にごみ」を知っていますか。

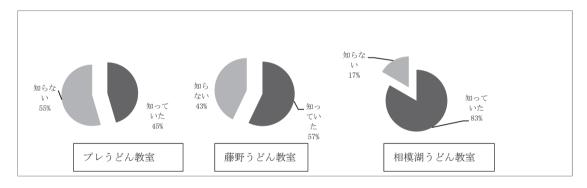


図-1

Q. うどんを打ったことがありますか。

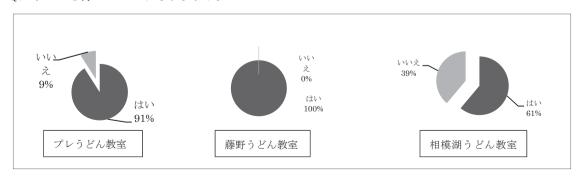
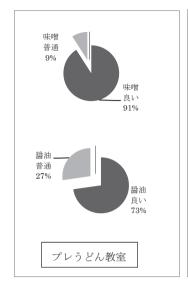
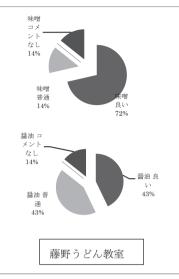


図-2

櫻井 美代子 3

Q. 味はどうでしたか





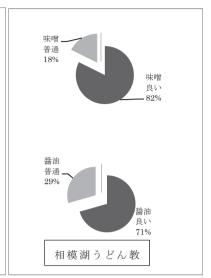


図-3

Q. 家庭でうどんを打ってみたいか。

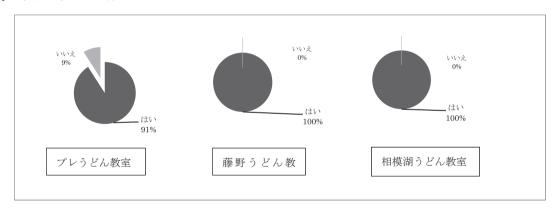


図-4

以上3件のうどん教室のアンケート結果より、参加者人数、年齢構成ではプレ・藤野に於いては、小学生が参加し、年齢層が若干相模湖より若い世代が多かった。「にごみ」を知っているかの質問に、プレと藤野では、約半分の人が知っていた。一方相模湖では参加者の年齢が60歳以上と高かったこともあり、地元での生活が長いと思われるため、「にごみ」の認知度は高かったことを表している。

味付けについては、3地域どちらも味噌の好みが醤油よりも多く回答があった。これは、個人の

嗜好も考えられるが、著者の聞き取り調査に於いて、藤野は味噌、相模湖では味噌・醤油両方との結果⁴⁾もあるため、その地域での嗜好も現れていると考えられる。うどんを作ったことがあるか(手作り)の質問では、参加者の60%以上は作ったことがあるとの回答であった。家庭でのうどん作りを参加者ほぼ全員が行いたいとの回答であった。「うどん教室」を通して、昔は毎日のように食していた「にごみ」を懐かしく思い返し、うどんを作ってみたいと意識をしてもらえたことは、

これからの「にごみ」普及に役立てたと考える。 「城山うどん教室」では、3件とは違う内容の アンケート調査を行った。時期が他の3件とずれ たこと、参加者は、城山商工会婦人部会員で構成 されたことなどを考慮して変更したが、内容につ いては今後検討する必要がると考える。アンケー ト結果は以下にまとめた。

表-2 城山うどん教室参加者構成

	女性
10代	
20代	
30代	
40代	
50代	1名
60代	9名
70代	3名
80代	

合計13名

Q.「にごみ」を美味しいと思いますか。

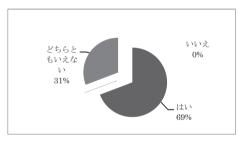


図-5

Q. 「にごみ」を食べたことがありますか。

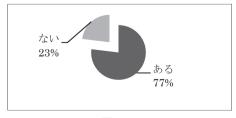


図-6

Q. あると答えた人、いつ頃食べましたか。

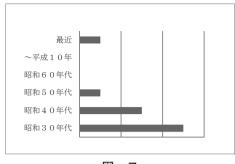


図-7

Q. 出身地はどちらですか。

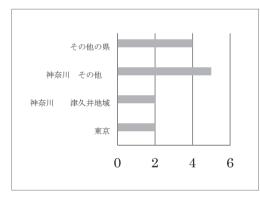


図-8

Q. こしのないうどんは好きですか。

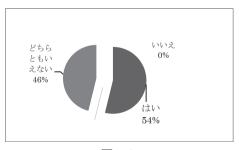


図-8

以上のことから、「にごみ」を美味しいと思いますかの質問に、「はい」は70%近くではあるが「いいえ」はないものの「どちらともいえない」が、1/3に達している。またこしのないうどんは好

5

きかどうかの質問では、半分近くがどちらともいえないとの回答であった。これはアンケート回答者の出身地との関係が見逃せない。神奈川県出身者はほぼ半分を占めているが、そのうち津久井地域出身者は2名と少なく、他県は東京を含め6名と半分近い割合であった。「にごみ」を食べたことがあると回答者は80%近かった。いつ頃食べていたかの質問には、昭和30年代・40年代に多く食されていたことになる。

回答者の年齢構成(50~70歳)より、津久井以外の地域からこの地に嫁ぎ、成人してから「にごみ」を食してはいたが、それぞれの出身地での食生活とは違うことから、こしのない「にごみ」をどちらともいえないとの回答の比率が多くなったと考えられる。

(2)「さがみはらフェスター

平成23年と同様に、「さがみはらフェスタ」へ 11月24日(土)、25日(日)試食提供として参加を行っ た。11月24日180食、11月25日200食、計2日間で 380食提供した。アンケート回答数2日間では140 であった。以下アンケート結果である。

表-3 「さがみはらフェスタ」アンケート 回答者構成

	H 113750		
	男性	女性	
~10歳	1	2	
10~19歳	1	1	
20~29歳	2	4	
30~39歳	14	28	
40~49歳	22	16	
50~59歳	20	8	
60~69歳	9	7	
70~79歳	2	3	
合計	71	69	140

Q. 出身地はどこですか。

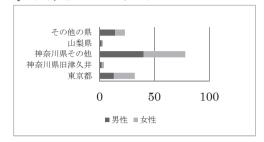


図-10

Q 「にごみ」を食べたことがありますか。

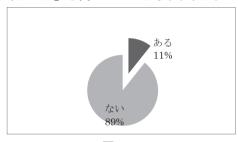


図-11

Q. 味噌・醤油味どちらを食べましたか。

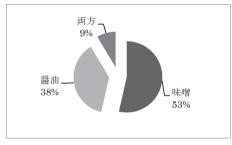


図-12

Q. 「にごみ | を美味しいと思いますか。

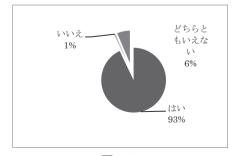


図-13

Q. こしのないうどんは好きですか。

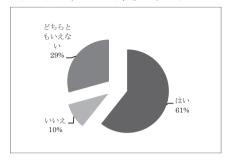


図-14

Ω 希望する価格はいくらですか。

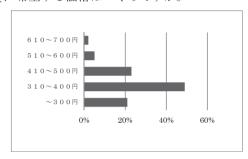


図-15

以上「さがみはらフェスタ」におけるアンケート結果である。表 - 3は回答者構成を示した。年代は10歳以下から70歳代まで幅広く、30歳代から60歳代が多く来場していた。また男性・女性もほぼ同数であった。

会場が相模原市で開催されていることにもかかわらず、全体の90%近くが食べた経験がなく、約10%の人は食べた経験を持っていた。このことは、「さがみはらフェスタ」が大きなイベントということもあり、不特定多数の人々が来場していたと考えられるためと思われる。

「にごみ」を美味しいと思うかの問いには、90%が好きと回答し、味噌・醬油の選択では、味噌を選択した人が多く存在した。また、こしのないうどんは好きですかの問いには、好きは60%、嫌いが10%、残りは、どちらともいえないであった。うどん教室等などに比較して、どちらともいえない、嫌いという回答が多かった。

希望価格については、相模原市内において、飲食店で販売する時の希望価格として想定した質問

である。400円前後が一番多く回答していた。価格については、試食ということもあり、価格は低くなったと思われる。

(3) 本学学園祭

本学学園祭に於いて、生活デザイン学科の学生が「にごみ」試食販売を行った。11月10日・11日2日間で460食を販売した。アンケート回答数は101であった。アンケート結果は以下の通りである。

表-4 本学学園祭アンケート回答者構成

	男性	女性	
~10歳代	0	2	
10歳代	4	17	
20歳代	11	15	
30歳代	1	2	
40歳代	3	5	
50歳代	9	11	
60歳代	5	11	
70歳代	2	2	
80歳代	0	1	
合計	35名	66名	101名

Q. 「にごみ」を食べたことがありますか。

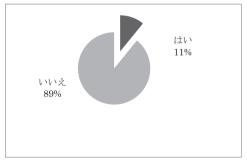


図-16

Q.「にごみ」を美味しいと思いますか。

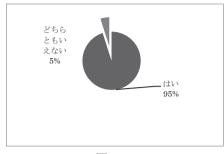


図-17

Q. こしのないうどんは好きですか。

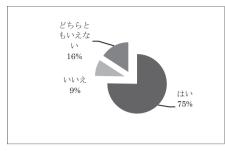


図-20

Q. 出身地はどちらですか。

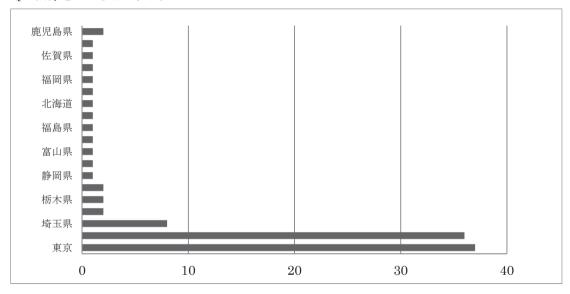


図-18

Q. 「にごみ」を食べたことがある人へ いつ頃食べましたか。

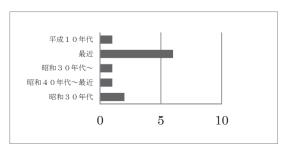


図-19

Q. 希望価格はいくらですか。

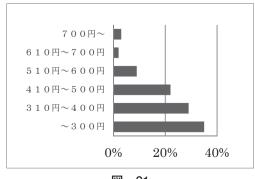


図-21

本学学園祭におけるアンケート結果より、回答者は10歳代から80歳代まで幅広い年齢層で10歳代・20歳代が多く参加があった。出身地は19都県におよび、東京都・神奈川県出身が多く来校していた。

「にごみ」を食べたことがありますかの問いに、食べたことがある人は10%ほどで、ほとんどの人が食べたことがないことが分かる。また、食べたことがある人はいつ食べられたかの問いに、昭和30年代・40年代も食べられていたが、最近との回答も多かった。

「にごみ」を美味しいと思いますかの問いに、ほとんどの人が美味しいとの回答であった。こしのないうどんが好きですかとの問いでは、好きではないとどちらでもないを含め約1/4の人が好きではないとの回答であった。味付けの嗜好では、今回初日を味噌味、次の日は醤油味の販売にしたため、選択をしなかったため、調査を行わなかった。

希望価格では、300円が一番多い意見であった。 これは、学園祭への参加者は学生に近い年代が多いことから、金額が低くなったと思われる。

5. まとめ

「うどん教室」・「さがみはらフェスタ」・「本学学園祭」でのアンケート結果を中心に報告を行った。それぞれの参加者は、年齢層や人数等違っていたため、一概に比較はできないが、うどん教室では、「にごみ」が食されていた地域とのこともあり、認知度は高かったものの、実際日常では食されていない。また、イベントにおける認知度では、「さがみはらフェスタ」・「本学学園祭」におけるアンケート結果では、「にごみ」を食べたことがない人は90%で、食後美味しいと回答は90%をこえていたこともほぼ同じ状態であった。

「うどん教室」において、うどんを打ったことがある人は60%おり、今後家でも打ってみたい人は、90%以上の回答であり、体験を通して食教育の影響が得られたのではないかと思われる。今後も体験を通しての食教育についての重要性を考えてみたい。

また、津久井地域の飲食店での「にごみ」販売も行われるようになってきたが、アンケート調査でもわかるように、まだまだ認知度が低い状態である。これからも「にごみ」普及に活動を通じて行っていきたいと考えている。

今後アンケートの内容については十分検討を行なわなければならないと考え、今後の課題としたい。

最後に今年度も昨年に続き受託研究「にごみプロジェクト」の活動より報告を行った。活動にあたり、津久井地域商工会連絡協議会の城山商工会、津久井商工会、相模湖商工会、藤野商工会のみなさま、地域連携・研究(町田)センターの山岡義卓氏、東京家政学院大学生活デザイン学科の学生前田美佳・村上絵美・浜中郁美・阿部百合子・黒田祐規子・宮崎茜・染谷真紀・砂村はるな・越野真由・遠藤千春・小俣沙織・緒方紗帆里・山野明生のみなさまにも深く感謝申し上げます。

また、アンケート調査にご協力いただいた方々 へ感謝申し上げます。

【註】

- 1) 櫻井美代子,「神奈川県津久井地域の「にご み」について」東京家政学院大学紀要第52 号,2012,171頁~177頁
- 2) 前掲書1)
- 3) 前掲書1)
- 4) 前掲書1)

(受付 2013.3.27 受理 2013.6.3)